

令和6年11月26日

県政記者クラブ加盟社 各位

教育庁職員課長

令和6年度教育者表彰（文部科学大臣表彰）について

文部科学省では、学校教育の振興に関し特に功績顕著な教育者の功労をたたえ、「教育者表彰（文部科学大臣表彰）」を行っています。このたび、令和6年度の本県の被表彰者が決定し、表彰式が実施されますので、お知らせします。

記

1 対象

現に国立学校、公立学校又は私立学校（大学及び高等専門学校を除く。）の校長、園長又は教員であって、学校教育に関し顕著な功績のあった者に対して行う。

2 被表彰者

令和6年度 3名

福島市立福島第四小学校長

いしはた りょうこ
石 幡 良 子 (60歳)

二本松市立二本松第一中学校長

さとう たかひろ
佐 藤 隆 宏 (60歳)

福島県立聴覚支援学校長

にしむら のりまさ
西 村 則 昌 (60歳)

(注) 年齢は表彰日（令和6年11月27日）現在

3 表彰式

日時：令和6年11月27日（水）

会場：文部科学省 3階講堂（東京都千代田区霞が関3-2-2）

4 功績概要

別紙のとおり

（問い合わせ先）教育庁職員課 主幹兼副課長 渡辺 隆博

〔電話〕024-521-7781・7789〔内線〕5162・5147・5025

(別紙)

令和6年度教育者表彰（文部科学大臣表彰）受賞者功績概要

番	氏名	功績概要
1	石幡 良子	<p>教諭時代は、家庭科の研究と実践に力を注ぎ、校内のみならず地区内外の家庭科教育の向上に寄与した。</p> <p>教育行政においては、指導主事として家庭科教育の充実を目指し、施策の考案や各教育事務所と連携した指導行政の推進に関して、具体的で示唆に富む指導助言を行うなど、手腕を発揮した。また、義務教育課長として、本県教育界の中核としてリーダーシップを発揮し、県の施策の推進に大きく携わった。また、教員の指導力、学校のチーム力の最大化に向けて、各教育事務所、関係機関との連携を図りながら、効果的な取組を促した。</p> <p>現在は、校長として、教育行政に長年携わってきた経験を生かし、学校経営に力を注ぎ、福島県小学校長会長の要職を務めながら、小学校教育の充実と振興に大いに貢献している。</p>
2	佐藤 隆宏	<p>教諭時代は、生徒の実態を捉え、体力や運動技能の向上に向けた保健体育科の授業の充実に努めた。</p> <p>教育行政においては、市の教育委員会指導主事等として、県の施策を踏まえながら中核市として独自の教育施策を展開し、その実現に向けて各学校への適切な指導を行った。また、健康教育課の主任指導主事、主幹、課長としてそれぞれの立場において、健康課題の解決や食育の推進に向けてリーダーシップを発揮した。特に課長時代には新型コロナウイルス感染症の流行があったが、福島県内の小中学生、教職員が安心・安全に学校生活を送れるよう国や市町村教育委員会と連携しながら対応にあたった。</p> <p>現在は、校長として、コミュニティ・スクールの機能をいかしながら保護者、地域住民、生徒と共に子どもが主体の学校づくりを目指して学校運営に尽力している。</p>
3	西村 則昌	<p>教諭時代には、病弱や知的障がいのある児童生徒の指導に携わり、特別支援教育に係る高い専門性を持ち、児童生徒の自立や社会参加に必要な資質・能力の育成に努めるなど、数々の実績を残した。</p> <p>教育行政においては、特別支援教育課長として教育行政の中核を担い、第二次福島県県立特別支援学校全体整備計画の策定に携わるなど、特別支援教育の推進と環境整備に手腕を発揮した。県立特別支援学校に「地域支援センター」を設置するとともに、「教育支援アドバイザー」を配置するなど、市町村や学校のニーズに応じた支援体制の整備に向けた取組に尽力した。</p> <p>校長経験と教育行政経験により、本県の特別支援教育の基本理念である「地域で共に学び、共に生きる教育」を推進するため、地域や関係機関と連携しながら、誰一人取り残さない教育・支援体制の構築に努め、本県特別支援教育の発展と教育行政の充実のために多大なる貢献をしている。</p>